国語科　授業改善推進プラン

1　学力効果測定結果

・「物語の内容を読み取る」、「説明文の内容を読み取る」の項目については、正答率が目標値と同程度、または上回っている。ただし、登場人物の様子や心情について、描写を基に捉えることについては、目標値を下回っている。
・「漢字を読む」、「漢字を書く」、「言葉の学習」の項目については、正答率が目標値を下回っている学年が多い。特に「漢字を書く」については、無解答の割合も多い。
・「文章を書く」問題については、どの学年も目標値を下回っている。また、無解答の割合がどの学年も３０％を超えている。
・「話し合いの内容を聞き取る」の項目については、目標値と同程度の正答率であるが、聞き取った内容を基に論の進め方を記述する問題では、大きく正答率を下げてしまっている。また、無解答も多い。

2　児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
・ひらがなを書いたり読んだりすることはできるが、長音、拗音、促音、撥音、助詞「はをへ」の表記をする力が身に付いていない。	・漢字や音読の練習には、熱心に取り組んでいる。漢字の理解や習得については、反復練習が必要である。 ・文章の内容の大体を捉えることはできる。伝えたいことを文章の組み立てを使って書く力には、個人差が見られる。	・漢字に興味があり、定着してきた児童は多いが、書き取りに苦手意識のある児童も多く、反復練習が必要である。 ・文章の大体を捉えることはできるが、ワークテストなどの問題文の読解を苦手とする児童も多く、個人差が大きい。	・全体的に漢字の定着に時間を要する児童が多く、反復練習をする必要がある。 ・調べたことをもとに文章を書くことが苦手である。	・全体的に漢字の定着に時間を要する児童が多く、反復練習をする必要がある。 ・問題文を理解することが困難な児童が多い。また、理解できても自分の考えを正しい言葉を使って文章にすることが苦手である。 ・文章を書く問題の正答率が低く、３割程度の児童が無回答である。	・「話し合いの内容を聞き取る」問題、「説明文の内容を読み取る」問題においては、目標値と同程度の正答率である。授業でも、読み取ったことをもとに自分の考えを伝えることができている。 ・「文章を書く」問題の正答率は目標値を大きく下回っている。 ・漢字の定着、語彙の拡充には課題がみられ、そのことは、学習効果測定の結果にも表れている。

3　課題や授業の改善策

	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
知識・技能	・文字や助詞の表記、改行等を正しく文中で使うことができるように、「かくってたのしいね」等を活用して、書く機会を増やす。 ・関連図書の活用や読み聞かせを通して、読書の幅を広げる。	・小テストによる漢字の反復練習に取り組ませる。 ・文章を書いたり読んだりする活動の中で、言葉や文章の基本的な表記の仕方（助詞・句読点・かぎ「」・の正しい使い方）を身に付けさせる。また、既習の漢字を使って、文章を書くことができるようにする。	・既習漢字・新出漢字の定着のため、漢字小テストや再テストなど、反復練習に取り組む。 ・語彙を豊かにするため、いつでも辞書が手元にある環境を作り言葉調べをする。 ・書く内容の中心を明確にした文章の構成を考えて書くことができるようにする。	・既習漢字、進出漢字の定着のため、反復練習や小テスト等の活用を行う。 ・読書の推進を行い、漢字に触れる機会を増やす。 ・文と文との接続の関係や、話の構成や展開を読み取れる授業展開をする。	・既習漢字、新出漢字の定着のため、反復練習を行い、定期的に小テスト等を活用する。 ・本の紹介などをして、読書に対して前向きに取り組めるように働きかけて、語彙力の向上に努める。	・既習漢字、新出漢字の定着のため、小テストを活用して反復練習を行う。また、読書の推進を行い、語彙力の向上に努める。 ・文の中の主語、述語、修飾語のつながりや、文同士の関係に着目した読み方を授業で実践する。
思考・判断・表現	・話し合う機会を設けて、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができるようにする。	・物語文や説明文の学習では、読むときの視点を示すことで、具体的に想像して読むことができるようにする。 ・日記や観察記録カードなどを書く活動の中で、メモや文の組み立てを使って、表現する力を身に付けさせていく。	・ペアトークやグループトークを取り入れ、話の中心を意識し相手に伝わる話し方ができるようにさせる。	・発言やグループ活動をする際、相手にとって理解しやすい事例や言葉かけを取り入れた表現ができるようにする。 ・重要な言葉や文を考えて活用できるように全体で確認しながら進める。	・グループ活動や全体での発言や話し合いをする際は、相手が知らないことについては、丁寧に理由付けをしたり相手にとって理解しやすい事例をあげる機会を設ける。	・ペアワークや班での活動を取り入れ、意見交換を通じて思考を広げることができるようにする。 ・学んだことを生かして取り組むことのできる課題を設定し、学習したことを基に、自分の考えを表現できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	・物語文の挿絵や説明文に出てくる物の写真や実物を提示して関心を高めさせる。 ・単元のめあてを示すことで、学習の要点を意識させる。	・ブックトークや読書活動などにより、本への関心を高めることで、自主的な読みにつなげる。 ・単元計画を立てる際に、活動の見通しをもたせることで、すすんで文章表現に取り組めるようにする。（文章の題材やテーマなど。）	・活動の見通しをもたせ、主体的に文章表現に取り組めるようにする。 ・必要な知識や情報を得るため、幅広い読書の推進を行う。	・児童の日常生活の経験と結び付けた導入を行うとともに、見通しとまとめのイメージを持たせ、主体的に学習に取り組めるようにする。	・児童らの日常生活の経験と結び付けて導入を行うとともに、見通しとゴールイメージをもたせることで主体性を高める。 ・ノート記述は板書だけでなく、教師の言葉や学習内容に関連する絵など、振り返りしやすいノートづくりに取り組めるようにする。	・児童らの日常生活の経験と結び付けて導入を行うとともに、見通しとゴールイメージをもたせることで主体性を高める。 ・振り返りの時間を適宜設け、自分の学習を自己評価し、次の学習に活かそうとする意欲を育む。

※重視する内容は、網掛けで強調する。